

<金標準先物、顕著な雇用統計を受け金利高の洗礼で7400円へ・・・>



(出所：オアシス)

3月の雇用統計では、非農業部門就業者数が事前予想の49万人増を下回る43.1万人増となったが前月の67.8万人増が75万人増へ上方修正されている。特に失業率が事前予想の3.7%を下回る3.6%になるなどコロナ感染拡大から順調な改善を見せている。

また雇用統計後にはFOMCメンバーでハト派のエバンス・シカゴ連銀総裁でも「私自身の基本的な評価は当局者の予測中央値と合致する」と述べ年6回行われる予定であるFOMC全てで0.25%の利上げを行う事を示唆している。そのためFRBはインフレ高に警戒を強めたスタンスを取り続ける可能性が高く、今週6日に公開されるFOMC議事録で再度タカ派の姿勢が示されれば、金利高の動きにNY金のドル建て価格は、1900ドルを割り込み3月29日の安値1888ドルを試す可能性は高くなっているのではないかと思える。

特に円建て価格の金標準先物は、円安の恩恵を受けるが、7400円を試す可能性は高くなると予想され、下値追いの展開には注意が必要と思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDとシグナルが軟調な動きを示しながら、乖離を示すヒストグラムも弱気の拡大を示している。またRCIは短期が下げながら、長期も切り下げだすなど高値維持が難しくなっている。特に日足が10日移動平均線を下回る確率が高く一時的に7433円の安値を試す可能性は高くなったと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,359,000 円(2022年4月4日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復 36,080 円(2022年4月4日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>